

目標3 魅力ある都市機能が融合する調和のとれた景観形成

■基本方針6 交流とにぎわいのある駅周辺の景観形成

駅やその周辺の商業地は、私たちが通勤や通学、買物など日常生活を営む上で大切な場所です。また、ショッピングを楽しみ、文化や情報と触れ合う場所でもあります。

市内の14駅周辺の商業地は、鉄道路線や交通結節状況、周辺地域の土地利用等によって趣が異なります。

そのため、地域特性をいかした商業振興を図るとともに、訪れる人々が安全で快適に回遊できるよう、身近で親しみやすい、交流とにぎわいのある駅前の景観づくりを進めます。

また、駅周辺の商業を取り巻く環境に大きな変化が想定される地域については、商業活性化と一体となった景観形成に取り組む必要があります。

施策13 生活拠点としてにぎわいのある駅周辺をつくる。

- 駅を中心とした商業機能の集積をいかして、市民の生活拠点となるにぎわいと活力のある景観を形成します。
- 分倍河原駅周辺地区では、駅前の基盤整備とともに、地域特性をいかした良好なまち並みの誘導を図ることにより、快適でにぎわいのある商店街を形成します。
- 多磨駅周辺においては、地域特性をいかした商業施設の集積を誘導し、魅力的な生活拠点の景観形成を促進します。
- 駅舎や駅周辺の商業施設、道路については、誰もが分かりやすく、安全・安心に利用できるよう、ユニバーサルデザインを推進します。

施策14 魅力ある商店街をつくる。

- 商店街の建築物の低層部には、魅力的な商業施設を誘導し、建築物等の色彩や形態、屋外広告物の誘導、道路の無電柱化やカラー舗装等により、まち並みの統一感や連続性が感じられる景観を形成します。
- 商店街のまち並みやにぎわいが連続するよう、建築物の低層部の壁面後退によるオープンスペースを確保し、歩行者の安全性や快適性に配慮したしつらえを誘導します。
- 商店街のイベントや地域の人々の交流の空間として、駅前広場などの公共空間やオープンスペースを有効に活用します。
- 周辺の住宅地との調和を図りつつ、夜間における商店街のにぎわいや楽しさを創出する景観の形成を図ります。

■基本方針7 快適で歩きたくなる通りの景観形成

道路においては、モータリゼーションの発達により、交通を処理する機能が優先されてきましたが、豊かな沿道景観の実現のためには、文化の交流空間、人々の生活空間としての道路の姿を取り戻すことが必要です。

道路整備においては、周辺住民の生活や土地利用の特性を反映しながら、誰もが安全に快適に歩ける道づくり、地域の自然や歴史、生活・文化と触れ合える沿道の土地利用、まち並みを誘導し、歩いて楽しい景観形成を進めます。

また、分かりやすい公共サインを整備し、街路灯やベンチなどの路上設置物のデザインや設置場所を含め、統一感のある道路景観をつくります。

施策 15 安全で快適な道路空間を確保する。

- 地域の事情を踏まえながら、電柱の占用箇所の見直し、開発事業における歩行者空間の確保及び歩行者空間の段差を解消するとともに、緑の環境空間の確保と適正な街路樹の配置・維持管理することにより、誰もが安全で快適に外出できる道路空間を確保します。
- 自転車と歩行者の通行の分離を進め、自転車走行空間の確保を図ります。
- 置き看板、放置自転車などの歩行を妨害するものについて、整理や除去を行います。
- 街路樹等の維持管理については、沿道住民等の協力を得ながら市民協働による取組を進めます。

施策 16 歩きたくなる魅力的な通りを育む。

- けやき並木通りや大國魂神社周辺の道路は、歴史的な景観と一体となった回遊性を創出する道路として、自然の色彩を基調とした風格のある舗装とバリアフリー化により、誰もが歩きやすい道路環境を維持します。
- 地域の景観資源を歩いて安全に巡れる歩行空間のネットワークや公共サインを整備し、地域観光と連携して、歩いて楽しい景観を形成します。
- 都市計画道路の整備に合わせて、沿道建築物等の高さ、色彩や形態、屋外広告物、道路の舗装等の誘導及び無電柱化等により、まち並みの統一感や連続性が感じられる、通りの趣ある景観を形成します。
- 道路沿いの敷地の緑化、生け垣化などを大切に住宅、建物づくりを進めます。

施策 17 統一感のある分かりやすい公共サインを整備する。

- 分かりやすい公共サインを整備し、街路灯やベンチなどの路上設置物のデザインや設置場所を含め、統一感のある道路景観をつくります。

■公共サイン整備の基本的な考え方

公共サインは、人を誘導して必要な情報を提供する等の基本的な機能を持ち、その情報や設置主体は多様です。また、駅前や交差点部といった動線や視線の集まる場所に、多様なサインの設置ニーズが集中し、駅前や交差点等における景観への影響が大きい要素となっています。また、公共サインは、その性格上、情報が必要な人は多様であることを認識することが重要です。

本市では、平成2年度に市全体の公共サインの整備の指針となる「府中市都市サイン基本計画」を策定し、サイン整備を進めてきましたが、ユニバーサルデザインやピクトグラム等を始めとする新たな考え方に対応しきれていない部分があります。

また、公共施設の所管部署が独自に設置するサインなどもあり、市全体において統一感の欠ける状態になっているとともに、管理が不十分であることにより機能を果たせていないものも見受けられるため、設置状況の実態調査を行い、課題を整理した上で、今後の公共サインの再整備の検討を行います。

■公共サイン整備のイメージ



■基本方針8 地域と調和した大規模施設の景観形成

都立多磨霊園や東京競馬場などの「大規模施設」や「大規模な事業所」が多いことが、まちの特徴となっています。これらの大規模施設が地域から孤立することなく、地域の景観づくりに貢献する土地利用の在り方を検討する必要があります。

また、大規模な事業所や未利用地の土地利用転換がされる場合、景観に大きな変化をもたらします。そのため、良好な景観づくりの観点から、周辺との調和及び魅力的な景観形成を積極的に誘導していきます。

施策 18 大規模施設と周辺地域との調和に配慮する。

- 大規模施設の塀や柵をセットバックし、緑化することで、大規模施設周囲にゆとりある緩衝空間を創出します。さらに、交差点部分における大規模な開発においては、交差点に面したオープンスペースの確保を図ります。
- 大規模施設の壁面は、道路からの後退距離を十分に確保し、周囲に圧迫感を与えないよう色彩や形態の調和に配慮したものとします。また、塀や柵は、施設の利用に支障がない限り、透過性を有するものに誘導します。
- 大規模な土地利用転換に当たっては、既存の地域特性や新たな魅力などをいかすことができる景観形成を目指します。

施策 19 大規模国有地等の土地利用転換に当たり、周辺地域との調和と魅力ある景観をつくる。

- 調布基地跡地については、すでに形成されている大規模な公共施設や公園等を中心とした、緑豊かな質の高い都市空間を維持し、建築物の形態や意匠、色彩等が調和した景観を守り、育てます。また、都市整備用地の商業・業務施設の土地利用に際し、豊かな緑に囲まれた良好な景観形成を図ります。
- 府中基地跡地留保地では、周辺の緑、文化、スポーツ、芸術などの多様な地域資源をいかしつつ、新たな土地利用に当たって、周辺地域との調和と新たな魅力を創出する景観形成を図ります。
- 基地跡地以外の国の施設等の跡地利用に当たっては、既存の地域特性や新たな魅力などをいかすことができる景観形成を目指します。